

ジャパトラマンのほやき

こんにちは、東京支店営業の前原です。既存のお客様の担当をさせて頂き、2年が経とうとしています。社会人としても、営業としてもまだまだ勉強中ですが、先日、定期的な出荷のあるお客様からとても嬉しいお言葉を頂きました。それは、『安心して任せられるので、他の仕事に集中できます』少数精鋭故、入社以来残業も多く時期によっては終電を逃すこともありますが、お客様にとって今何が必要なのか、私達には今何が出来るのか考え、諦めず取り組んできたからこそ頂けたお言葉なのではと感じた瞬間でした。ジャパントラストには志の高い営業マン、そして強力な内勤サポーターが集まっています。ハードを持たない私達だからこそ、私達にしかできないサービス、心のこもったおもてなしをご提供出来るよう、これからも努めてまいります。今後ともジャパントラストをよろしくお願い致します。



東京支店 前原

ジャパントラストかわら版

情熱羅針盤

海運豆知識

家畜運搬船：中東・豪州間で活躍する生きた羊を運ぶ専用船

国柄が異なれば、輸入される物資も異なる。外国には、日本ではニーズがほとんどない貨物を運ぶ珍しい（日本人からみれば）専用船もある。家畜運搬船もその一つだ。この船種が活躍するのは、オーストラリアなど食用羊の輸出国とその輸入国である中東諸国を結ぶ航路。イスラム教国では羊が食肉の中心だが、宗教上の理由で屠殺後24時間以内の肉しか食べられない。このため生きたまま輸入する必要があるからだ。家畜運搬船の外観は、自動車専用船に似ている。ほとんどが、甲板上に何層ものサブデッキをもつ構造物をつくり、そこをさらに細かく区分けして家畜の格納スペースとする。また甲板から下の船倉部分は、輸送中の飼料の貯蔵スペースや清水タンクなどに使われる。甲板上には、飼料サイロが設けられ、ここからペレット状の飼料がベルトコンベアなどによって家畜スペースに送られ、さらに飲み水を送る配管や、汚水を処理する配管・タンク設備も設けられている。とくに輸送中の酸素欠乏を防ぐため換気には十分な配慮がなされ、通常、毎分12回～20回程度の換気が行われる。タンカーなど他の船種を改造した船が多いのも、この専用船の特徴の一つ。7万重量トン程度の比較的小型の原油タンカーを改造したもので約8万頭の羊を運ぶことができる。食肉の羊といっても生きた動物である。死亡率が高ければ採算が低下するだけでなく、動物虐待と非難されることになる。家畜運搬船は、おそらく、さまざまな専用船の中でも輸送中とくに神経を使う船種の一つだろう。

社員ブログ 公開中!

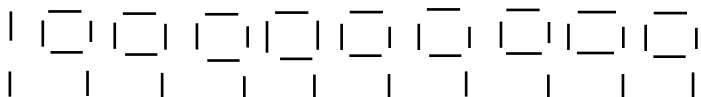
お客様と、ビジネスだけでなく、心と心が通い合い、思いと思いが通じ合う調和のとれた人間関係を築くための場です。また、海運業界で奮闘している営業マンの生の声を聞くことができます。是非、弊社ホームページからのぞいてみて下さい。弊社が一番大事にしている「心のこもったおもてなし」を表現したページです。

<http://www.jpntrust.co.jp/>

クイズ

【問題】

下のマッチを並べた数字に マッチ1本を足して1にするには？



クイズの答え、お名前、プレゼントの送り先、本誌を読んだ感想を明記の上 ncustomer@jpntrust.co.jp までお送りください。正解された方には1000円の商品券を差し上げます。3月15日締め切り。